

平成30年度第1回墨田区地域福祉計画推進協議会議事要旨

日 時： 平成30年7月30日（月）10時から11時40分

場 所： 墨田区役所12階 121会議室

- 議事内容：
- 1 開 会
 - 2 福祉保健部長あいさつ
 - 3 委嘱及び会長・副会長の選任について
 - 4 議事
 - (1) 『墨田区地域福祉計画』の進捗状況報告について
～平成29年度実績及び平成30年度計画～
 - (2) すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム開催の報告
 - 5 閉 会

【配布資料】

墨田区地域福祉計画（概要版）

墨田区地域福祉計画 主な事業 平成29年度実績・平成30年度計画

すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム開催の報告

墨田区地域福祉計画推進協議会委員

氏 名	所 属	出欠席
山 口 稔	関東学院大学教授	出席
鈴 木 洋	墨田区医師会会長	欠席
湯 澤 伸 好	東京都本所歯科医師会会長	欠席
白 石 弘 子	墨田区薬剤師会理事	出席
鎌 形 由美子	墨田区民生委員・児童委員協議会会長	出席
荘 司 康 男	墨田区障害者団体連合会会長	欠席
野 原 健 治	墨田区私立保育園協会、興望館館長	出席
沼 田 典 之	墨田区老人クラブ連合会会長	出席
古 市 吉 弘	なりひらホーム施設長	出席
横 山 信 雄	墨田区社会福祉事業団事務局長	出席
栗 田 陽	墨田区社会福祉協議会事務局長	出席
庄 司 道 子	墨田区男女共同参画推進委員会	欠席
石 鍋 光 子	朗読奉仕「くさぶえ」監査	欠席
伊 藤 林	個人ボランティア	出席
木 村 幸 雄	個人ボランティア	出席
井 上 久 子	録音グループかりん会長	出席
齊 藤 宮 子	点訳グループ「きつつき」会長	出席
外 川 浩 子	NPO法人「マイフェイス・マイスタイル」代表	出席
青 木 剛	墨田区福祉保健部長	出席
岩 佐 一 郎	墨田区子ども・子育て支援部長	出席
伊津野 孝	墨田区保健衛生担当部長	出席
関 口 芳 正	墨田区地域力支援部長	欠席

事務局

厚生課長 須藤 浩司
 生活福祉課長 倉松 邦多
 障害者福祉課長 杉崎 和洋
 介護保険課長 岩下 弘之
 高齢者福祉課長 藤田 公德
 福祉保健部副参事 梅原 和恵
 子育て支援課長 浮田 康宏
 厚生課 東條、柴田、田部井

【1】 福祉保健部長あいさつ

本日は今年度第1回目の協議会でございます。本来であれば墨田区長から委嘱状をお渡しするところでございますが、本日は机上配布させていただいております。

本日の流れですが、まず会長様、副会長様の選任をさせていただいた後、墨田区地域福祉計画の進捗状況についてご報告をさせていただきます。その後7月7日に開催されましたすみだ地域福祉・ボランティアフォーラムの報告をさせていただき、皆様のご審議を頂ければと思います。

皆様どうぞよろしく願いたします。

【2】 新任委員の紹介

厚生課長から、湯澤委員、白石委員、古市委員、庄司委員、木村委員、岩佐委員、伊津野委員、関口委員の8名の新任委員を紹介した。

【3】 委嘱及び会長・副会長の選任について

(1) 委員の互選により、野原委員が会長に選出された。

(2) 会長あいさつ

野原会長

「第3次地域福祉計画の策定から関わらせていただいた。どこまで進展しているのか、楽しみである。」

(3) 野原会長の指名により、山口委員が副会長に選任された。

野原会長

「第3次墨田区地域福祉計画の策定において、助言を頂いた関東学院大学の山口教授に副会長をお願いしたい。」

(4) 副会長あいさつ

山口副会長

「一生懸命取り組んでいきたい。どうぞよろしく願いたします。」

【4】 議事：『墨田区地域福祉計画』の進捗状況報告について

(1) 墨田区地域福祉計画概要版の説明

・厚生課長から平成29年度及び平成30年度計画の概要について説明。

墨田区地域福祉計画 主な事業 平成29年度実績・平成30年度計画の説明

・障害者福祉課長から「作業所等経営ネットワーク事業の充実」について説明。

・生活福祉課長から「生活保護受給者自立支援プログラム」について説明。

・福祉保健部副参事から「高齢者の見守り体制の充実」について説明。

・社会福祉協議会事務局長から「市民後見人の育成・支援」、「ふれあいサロン実施地区の拡大」及び「小地域福祉活動実践地区の拡大」について説明。

委員からの質問・ご意見

【ご意見】

- 地域福祉について言われるようになって久しいが、地域福祉計画を進める上で、高齢化の進行や担い手の問題等新たな問題が出てくるようになった。第3次地域福祉計画の後期のポイントとしては住民の参加が挙げられる。地域福祉計画は分野が多岐にわたるため、全体を俯瞰する眼が必要である。現計画は平成32年度までの計画であるため、今後改定作業等が必要になってくる。忌憚のない意見を出してほしい。(会長)

【質問】

- 高齢者の見守り活動について、なりひら包括では活発に活動を行っている実感がある。区として自主的な活動については増えているのか。また世代間交流についてはどのような状況になっているか。(委員)

⇒自主活動については年々増加しており、墨田区の高齢者総合支援センターで把握している数としては140ほどある。ただ地域により差がある。また継続することが難しいため、解散をしてしまう例もある。世代間交流については、高齢者の方が児童館と連携をし、世代間交流を行うこともある。(介護・医療連携調整担当)

⇒現在2箇所設置している地域福祉・プラットフォームについて統計を取っているが、高齢者だけではなく、子どもから様々な世代の方が利用をしている。そういった意味では世代間交流が徐々に進んできていると考えられる。(委員)

⇒地域差はあるが、地域との交流を通して世代間交流が図られている。(委員)

- 「生活保護受給者自立支援プログラム」では就労意欲の喚起を行っているが、生活保護を受給している方はそもそも自己肯定感が低いいため、自己肯定感を育む工夫がないと就労意欲の喚起には結びつかないのではないか。(委員)

⇒就労意欲喚起等プログラムの他に被保護者社会参加促進プログラムを行っている。このプログラムではコミュニティスペースすみだという場所を設け、ひきこもりの方が外に出る習慣を身に付けられるよう工夫をしている。さらにはボランティア活動を通して社会参加を促す活動も行っている。生活保護受給者の約57パーセントが高齢者のため、残りの43パーセントは本来就労を行う必要がある。その中で就労意欲があるが就労に結びついていない方についてはハローワーク活用プログラムで支援を行い、ひきこもりの方については就労意欲喚起等プログラムを通して支援を行っている。就労意欲喚起等プログラムについてはNPOのやまてという団体が行っている。(生活福祉課)

【ご意見】

- 地域の活動に出てくるのはいつも同じメンバーであり新しいメンバーが入ってこない現状がある。メンバーの多様化が求められているのではないか。(委員)

○地域の活動に子どもを呼ぶにはどうしたらよいのかというのが一番の課題。多世代交流を進めていくには何か工夫をしていかなくてはいけない。(委員)

(2) すみだ・地域福祉ボランティアフォーラム開催の報告について

資料3を用い、厚生課から説明する。説明後、フォーラムの映像を2分程度流す。

委員からの質問・ご意見

【質問】

○いったいプラットフォームはいくつ作るのか。千代田区では若い企業家を育てるプラットフォーム作りを行い大成功した。何か1つのプラットフォームを人が見に来るくらい素晴らしいものを作れるといいのではないか。(委員)

⇒地域福祉計画にプラットフォームという言葉がたくさん出てくるが、特定の場所に特定のものを設けるというよりは、様々な方が関わり、いろいろな課題を解決していくという考え方がプラットフォームである。一方社会福祉協議会で行っている地域福祉・プラットフォームとは、交流・相談機能を合わせ持ち、関係機関と連携しながら様々な福祉課題に向き合っていくものである。(委員)

○児童館と町会との連携がうまく取れていない現状があるのではないか。(委員)

⇒児童館は核となる場所としては適切である。町会・自治会と連携を図るためには地域で繋がるきっかけが必要である。ボランティアフォーラムでも取り上げられていた防災訓練のように、地域の方と児童館が一つになれるようなものが必要である。何か求心力のある材料を見つけられたらいいのではないか。(委員)

【ご意見】

○町会側からすると自分の住んでいる地域にダイレクトに影響がないとボランティア活動をなかなか把握しにくい現状があり、町会の方の参加がさほど多くなかった。しかし子どもと一緒に防災訓練をする町会などがあり、少しは地域力の向上が進んだ実感がある。今後も新しい試みをする町会がもっと増えるといい。(委員)

○ボランティアフォーラムには町会・自治会から人があまり来なかった。義理で来ている人もいる。以前夏祭りに町会全員参加を呼びかけたことがある。行政から声がかかると協力しやすい。(委員)

○差別解消法等に対する職員間の温度差がある。点訳や音訳についての対応をもっとしっかりしてほしい。(委員)

○友愛活動を積極的に進めていきたい。(委員)

○世代間交流について、本所高等学校のブラスバンド部や美術部と交流を図っている。また高齢者の方に昔の経験を語ってもらう活動等をしている。今後も町会との連携を図りたい。(委員)

【ご意見】

- ボランティアフォーラムについては8年続いているという継続性があり、年2回やれないかという意見もある。今後は若い人の参加や多様性のある顔ぶれを目指していく必要がある。そのためには町会・自治会が地域福祉を理解する必要がある。町会・自治会に地域福祉がより浸透していくようにしたい。(会長)

(3) まとめ(山口副会長より)

各事業の評価の枠組みがあるが、行政評価はほとんどAになってしまう。しかしそれで住民は納得するのかという疑問が残る。住民が納得できない、或いは理解できない政策評価の仕方はおかしい。地域福祉計画は地域に密着した計画であり、他の計画と同じ枠組みで評価すること自体に無理がある。

住民の関心は深まったのか、住民の理解は深まったのか、住民の参加は進んだのか、今後住民が参加していく可能性はあるのか、公的な役割と民間の役割はどのように整理されたのか、ネットワークの共同はどのように進んだのかなどといった視点で考えていくと分かりやすくなり、これらの視点が次の計画を作るときの視点にもなる。

ガバナンスがなぜ大事かという点、制度の狭間で様々な問題が出てきて行政の力だけでは解決できない時に、地域の手助けが必要になるからである。ガバナンスで特に重要視されなければいけないのが地域福祉計画である。この地域福祉計画の中で、住民がどれだけ理解し、参加し、ニーズを明らかにできたかということがまさにガバナンスといえる。このガバナンスをもう一歩進めていく必要がある。

墨田区の場合は、事業評価の中に利用者の声が出てくるのがいい。ほかの自治体と比較すると、先駆的な取り組みを行っているため、それをもう少し整理し発展させる必要がある。また本で行われたような議論がより反映できるような形で枠組みや視点を明らかにしていく必要があるのではないか。